

令和4年 上期  
景況調査報告書

令和4年1～6月期 実績

令和4年7～12月期 見通し






徳之島三町商工会

(令和4年7月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等、地域の経済動向について半期毎に変化の実態等の諸状況を迅速・的確に収集しているものである。

この報告書の中で用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値であり、企業の景気動向を表す指数として利用されている。

＜お天気マークの説明＞

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和4年1～6月期を対象とした。令和4年7～12月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 徳之島町商工会・天城町商工会・伊仙町商工会
- 回答企業 対象企業 29企業  
製造業：6企業 建設業：5企業 小売業：9企業  
サービス業：9企業  
(※徳之島の29企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数とご理解いただきたい。)

島内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
前年同期比	(2021年1月～6月期)		▲ 16.7		▲ 20.0		▲ 16.7		▲ 30.6
前期比	(2021年7月～12月期)		▲ 11.1		▲ 13.3		▲ 11.1		▲ 14.8
来期見通し	(2022年7月～12月期)		4.2		▲ 10.0		▲ 13.9		19.4

総合（業況）

前年同期・前期と比較した今期の業況は、全ての業種が不振となった。要因としては仕入れの上昇等物価の高騰の影響をうけたものとみられる。加えて年始や5月の連休明けなど島内で新型コロナウイルス感染症が急増したことにより、外出自粛や事業者周辺の感染などにより業況に影響を与えたと考えられる。業種別で見ると、製造業は食料品製造業をはじめ新型コロナウイルス感染症による外食需要の停滞、材料費の高騰の影響を受けた。建設業は引き続き新型コロナウイルス感染症による資材の高騰と資材の遅れの影響を受けた。小売業も全般的に仕入価格の高騰の影響を受けている。サービス業は依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けている。加えて物価上昇の影響もあり、前年同期比では▲30.6を業況に大きなダメージを受けている。一方最近では観光客が回復傾向にあることや新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せていることもあり、来期の見通しは19.4となっている。

## 業種別景気動向

### 【製造業】 有効回答数 6企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2021年1月～6月期)	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7
前期比	(2021年7月～12月期)	▲ 16.7	0.0	-	-	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7
来期見通し	(2022年7月～12月期)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響を受けている。

#### 経営上の問題点

物価の上昇等により業況の悪化がみられた。また輸送コストの影響も大きい。

### 【建設業】 有効回答数 5企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2021年1月～6月期)	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 20.0
前期比	(2021年7月～12月期)	0.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	-	-	▲ 20.0	▲ 20.0
来期見通し	(2022年7月～12月期)	20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 60.0	▲ 60.0	0.0	0.0

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

受注の減少が進む中、材料価格の高騰もあり採算面に不安がある。

#### 経営上の問題点

材料・建設資材の価格上昇のほか資材の遅れが挙げられる。

### 【小売業】 有効回答数 9企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2021年1月～6月期)	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 22.2
前期比	(2021年7月～12月期)	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	-	-	▲ 11.1	▲ 11.1
来期見通し	(2022年7月～12月期)	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

食材や油など仕入れ単価が大きく高騰しており、値上げもやむを得ない。

#### 経営上の問題点

全体的な物価の上昇、大型店舗への流出が主な課題となっている。

【サービス業】 有効回答数 9企業

		売上額		資金繰り		採算		業況	
前年同期比	(2021年1月～6月期)	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 55.6	▲ 55.6	▲ 22.2	▲ 22.2
前期比	(2021年7月～12月期)	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 22.2	-	-	▲ 11.1	▲ 11.1
来期見通し	(2022年7月～12月期)	33.3	33.3	11.1	11.1	▲ 22.2	▲ 22.2	55.6	55.6

<調査対象企業が感じている景気判断コメント>

仕入れ価格の上昇に加え島内の感染拡大の影響により業況が悪化した。

経営上の問題点

新型コロナウイルス感染拡大・物価上昇が上位を占めている。

《参考となるその他の景況から》

2022年6月6日  
日本銀行鹿児島支店

## 鹿児島県金融経済概況

### 【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、緩やかに持ち直している。観光は、持ち直している。在宅投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準で推移している。

生産は、持ち直している。

企業部門の動向を短観（3月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、景況感  
は、小幅に悪化している。設備投資は、高水準で推移している。

こうした企業動向を反映して、労働需給は、改善しつつある。雇用者所得は、  
弱い動きとなっている。

### 【各論】

#### 1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額と家電販売額は、前年を上回って推移している。乗用  
車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を下回って推移している。

#### 2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移  
している。

#### 3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回って推移している。

#### 4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、分譲を中心に前年を上回った。

#### 5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、汎用・生産用機械、窯業・土石製品を中心  
に前月を下回った。

#### 6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、上昇した。

現金給与総額は、前年を下回った。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

#### 7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

#### 8. 金融面

預金，貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。